

## ■ 学歴

---

1. 1992年 九州大学医学部医学科 卒業

## ■ 学位

---

1. 2001年 博士（医学）

## ■ 研究分野

---

1. 予防医学

## ■ 研究キーワード

---

1. 健康管理
2. 生活習慣
3. がん教育
4. がん検診

## ■ 研究課題

---

1. 健康寿命の延伸を図るため、啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討し、がん検診の受診率を高めるための方策等について考察する。
2. 女子大学生の健康維持・増進に向けた支援の効果的な取り組みについて検討する。

## ■ 担当授業科目

---

1. 疾病診断治療学Ⅰ（前期）（栄養学科）必修
2. 臨床基礎医学実習（前期）（栄養学科）必修
3. 病理基礎医学（後期）（栄養学科）必修
4. 疾病診断治療学Ⅱ（後期）（栄養学科）必修
5. 管理栄養士演習Ⅰ（通年）（栄養学科）選択
6. 実践活動（通年）（栄養学科）選択

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【病理基礎医学】<br>1年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていくように努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあ |
|----|---|

	<p>てるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。</p>
2.	<p><b>授業科目名【疾病診断治療学Ⅰ】</b></p> <p>管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。</p>
3.	<p><b>授業科目名【疾病診断治療学Ⅱ】</b></p> <p>疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めるとともに、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。</p>
4.	<p><b>授業科目名【臨床基礎医学実習】</b></p> <p>管理栄養士はチーム医療を担う一員である。医療の現場においては対象者の栄養状態や健康状態を把握した上で、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。血圧脈波検査・腹部エコー検査・骨密度検査・乳がん検診方法等を体験するとともに、高齢化社会を意識して認知機能を調べる検査を組み込んだ。各実習の最初には、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。検査を実際に体験するのみならず、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。なおレポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。</p>
5.	<p><b>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】</b></p> <p>4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出題された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。</p>
6.	<p><b>授業科目名【実践活動】</b></p> <p>がんの原因の中には生活習慣とかかわるものも多く、予防のためのがん教育が小学校から始まっている。そのような状況を受け、「大腸がんの予防と食事との関連」をテーマに、11名の4年生および3名の3年生を指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について教授し、文献検索等により情報収集・考察し、レポートにまとめることを指</p>

導した。地域活動および調査内容については栄養学科保護者懇談会にて発表した。

また「食と健康」に関して地域住民に啓発活動を行うための本学栄養学科および九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座にて成果を披露する場を得た。「親子で歯っぴー」をテーマに、小学生とその保護者を対象に、咀嚼や食育に関する講座を開催した。工作体験を取り入れて楽しく学べるように工夫し、ポスターにて「腸内環境と健康」に関する啓発活動を行った。また本公開講座での活動内容を、地域貢献活動交流会にてポスター発表したことも貴重な経験となった。大学で学んだ知識や技術をもとに、「食と健康」「口腔保健」の立場から連携して地域住民への情報発信と健康支援を行ったことは、将来就くべき専門職に対するモチベーションを高め、多職種連携によるチーム医療への理解を深めることにつながったと考える。

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年8月～現在に至る	日本人間ドック学会	人間ドック認定医 (2005年8月～現在に至る)
2.			人間ドック健診情報管理指導士 (2007年8月～現在に至る)
3.			人間ドック健診専門医 (2012年1月～現在に至る)
4.			人間ドック健診指導医 (2017年4月～現在に至る)
5.			遺伝学的検査アドバイザー (2020年4月～現在に至る)
6.	2006年10月～現在に至る	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医 (2006年10月～現在に至る)
7.	2010年5月～現在に至る	日本がん検診・診断学会	がん検診認定医 (2012年10月～現在に至る)
8.	2011年4月～現在に至る	日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医 (2020年1月～現在に至る)
9.	2017年4月～現在に至る	肺がんCT検診認定機構	肺がんCT検診認定医 (2017年4月～現在に至る)
10.	2010年4月～現在に至る	日本医師会	日本医師会認定健康スポーツ医 (2011年5月～現在に至る)
11.			日本医師会認定産業医 (2016年9月～現在に至る)
12.			福岡県医師会認定総合医 (2017年4月～2023年3月)

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要
------	--------	-----	----------	----

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.					
(学術論文)					
1.	2023.3	遠隔教育における大学生の健康に関する調査(第2報)ー全面遠隔から対面・遠隔併用型授業へ移行してー	共	西南女学院大学 紀要 2023 Vol.27	① 新型コロナウイルスの感染対策として、本学では、1年間にわたるほぼ全面的な遠隔授業を経て、対面・遠隔併用型授業へと授業形式を移行させた。2020年度後期の遠隔授業終了時と2021年度後期の対面・遠隔併用型授業の終了時に、本学栄養学科の学生を対象として健康に関するアンケート調査を継続して行い、遠隔授業下での授業形式が学生の心身に及ぼす影響について検討した。 ② 共著者名：高崎智子、相良かおる、八木康夫、坂田郁子 ③ (P119-134)
(翻訳)					
1.					
(その他)					
1.	2023.4	本学の学生を対象とした「健康管理カルテ」の作成	共	西南女学院大学 保健福祉学部 附属保健福祉学 研究所 2022 報告書	① 本学学生の健康状態の自己管理を目指し「健康管理カルテ」を作成した。「健康管理カルテ」配布3か月後および10か月後に学生の利用状況に関する調査を実施し、その結果から今後の運用方法について検討した。 ② 共著者名：水貝洵子、山田恵、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子、大内田知英 ③ (P10-13)
2.	2024.2	「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座～「親子で歯っぴー食育こうざ」～	共	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域活動論叢 2023 年度	① 口腔機能と栄養は密接に関連している。2大学が連携し、2023年11月に「親子で歯っぴー」をテーマに、小学生とその保護者を対象とした咀嚼や食育に関する講座を開催した。本連携公開講座における地域住民への情報発信と健康支援活動について報告した。 ② 共著者名：高崎智子、浜谷小百合、永田純美、竹下諄美、矢野夏実、坂田郁

					子、邵仁浩、中道敦子、船原まどか、辻澤利行 ③ (P18-20)
<b>(学会発表)</b>					
1.	2023. 11	A女子大学における「健康管理カルテ」の作成と配付－学生の自己管理能力向上をめざして－	共	一般社団法人日本学校保健学会 第69回学術大会 (於 聖心女子大学)	① 本学学生の健康状態の自己管理を目指して作成した「健康管理カルテ」を1、2年生に配布した。配布時期と利用状況に関する調査を実施し、健康意識を高めるための運用方法について検討した。 ② 共同発表者名：山田恵、水貝洵子、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 ③ 一般社団法人 日本学校保健学会 第69回学術大会講演集 (P130)

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

<b>(1) 共同研究</b>				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				

<b>(2) 個人研究</b>				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2020年2月～現在に至る	国家公務員共済組合連合会 新小倉病院	非常勤医師・産業医・ 衛生委員会 副委員長
2.	2022年4月～現在に至る	北九州市食品衛生懇話会	会員（座長）
3.	2023年11月23日	「食と健康」に関する西南女学院大学栄養学科・九州歯科大学口腔保健学科連携公開講座	「親子で歯っぴー食育こうぞ」 企画・運営
4.	2024年3月1日	2023年度 地域貢献活動交流会・地域懇談会	地域連携室運営協議会 構成員

## ■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021年4月～現在に至る	学校法人西南女学院 将来計画委員会	大学・短期大学 部 委員
2.	2021年4月～現在に至る	西南女学院大学・短期大学部 学生部	学生部長
3.	2021年4月～現在に至る	大学評議会	構成員
4.	2021年4月～現在に至る	運営会議	構成員
5.	2021年4月～現在に至る	点検評価改善会議	構成員
6.	2022年1月～現在に至る	認証評価ワーキングチーム	「学生領域」担 当メンバー・ワ ーキングチー ム副責任者
7.	2021年7月～現在に至る	将来計画検討プロジェクト会議	構成員
8.	2022年10月～現在に至る	教学マネジメント会議	構成員
9.	2023年4月～現在に至る	改革推進グループ会議	構成員
10.	2023年6月～現在に至る	教学 IR 推進室	室員
11.	2021年4月～現在に至る	地域連携室運営協議会	構成員
12.	2021年4月～現在に至る	学生総合支援室運営連絡協議会	構成員
13.	2019年4月～現在に至る	倫理審査委員会	委員
14.	2021年4月～現在に至る	学生委員会	委員長
15.	2021年4月～現在に至る	就職委員会	委員長
16.	2021年4月～現在に至る	国際交流委員会	委員長
17.	2021年4月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員
18.	2021年4月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防止・対策委員会	委員
19.	2024年3月7日	2023年度 大学キャンパスハラスメント相談員 講習会	司会
20.	2024年3月14日	2023年度 大学キャンパスハラスメント防止セ ミナー 「大学におけるハラスメントの対応と予防」	座長
21.	2021年4月～現在に至る	硬式テニス部	顧問
22.	2019年4月～現在に至る	栄養学科 学生アドバイザー	アドバイザー
23.	2019年4月～現在に至る	管理栄養士 国家試験対策講座（前期・夏期集中・ 後期・国試直前）	講師
24.	2022年9月～現在に至る	社会福祉士 国家試験対策講座（夏期集中）	講師
25.	2023年7月9日	オープンキャンパス 栄養学科模擬授業「自分の 体を知ろう～See what you're made of!～」	講師

